

チャオ・ベトナム

J A P A V I E T N A M 会 報

NO.48

発行者：ジャパ・ベトナム事務局 発行日：2014年10月30日

◆2014年ベトナム視察ツアー.....	1	◆もう少し落ち着いて.....	6
◆初めてのベトナムの旅.....	2	◆ミニバスの車窓から.....	7
◆22年間ありがとうございました.....	3	◆寄付者一覧.....	9
◆貧しさを乗り越えてどう発展していくべきか.....	4	◆会計報告.....	10

2014年ベトナム視察ツアー

8月23日（土）から9月6日（土）まで、ベトナム視察ツアーを行いました。日程は次の通りです。

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 8/23 羽田→ハノイ | 9/ 1 HCM市内 |
| 24 ハノイ→カオバン省 | ◆エイズ診療所視察 |
| ◆省立病院視察 | 2 自由日 |
| 25 カオバン省→ハノイ | 3 HCM市→カマウ省 |
| 26 自由日 | ◆ダイハイ道路拡張支援視察 |
| 27 ハノイ→ゲアン省→ハノイ | 4 ◆フータン家建築支援視察 |
| ◆フンチュン診療所視察 | 5 カマウ省→HCM市 |
| 28 ハノイ→HCM市 | ◆ハウザン省聖ヨセフ小学校視察 |
| 29 HCM市→ビンフック省 | 6 HCM市→成田 |
| ◆ロンハー、ロンディエン少数民族支援団体視察 | |
| 30 ◆ブダン少数民族支援グループ視察 | |
| ビンフック省→HCM省 | |
| 31 HCM市内 | |
| ◆スラム自立支援グループ視察 | |
| ◆エイズ子供家族支援グループ視察 | |



今回のツアー参加者は、全部で13人、うち3人はベトナムからの参加者です。5人のベトナム人に通訳をしていただきました。

このツアーは、ジャパベトナムの支援先を訪問し、現地の人と交流を深める目的で、毎年行っています。誰でもどの期間でも、参加できます。多くの方がツアーに参加し、支援先を自分の目で見ることを希望しています。

さて、今年のツアーの様子は？ 参加者が書いた報告をお読みください。

観光では行けない場所、地域に行くという言葉に、ジャバ・ベトナムの皆様とベトナム 10 日間の旅に参加させていただきました。印象に残ったことを書いてみたいと思います。

8月23日、安藤さん、小野さん、私達夫婦は羽田から6時間、ハノイの空港に降り立った。高温でありながら湿気がないので、暑さを感じなく爽やかな気分でした。Nhaさんが友人と出迎えてくれ、車で市街地へ。車窓からの景色は、茶褐色の大河と噂に聞いていたバイクの群れに“ベトナムへ来たのだ”と実感！ホテルに着くと、主人とホテルの周辺の街を探索に。路地を入ると道路の両側を道路沿いに長い列ができて、多くの人達が賑やかに飲み食いしている光景は圧巻でした。

2日目、カオバン省立病院へ。ハノイから車で山越えを重ね、山岳地帯へ6時間。予想に反した白亜の大病院に着き、小児病棟に連れて行かれたのは驚きでした。私の中で枯葉剤を浴びた患者に会えるのではと思っていたので、患者の事を聞くと、Nhaさん、小野さん、安藤さんが異口同音に「この地域には枯葉剤はまかれなかった」と言われ、枯葉剤という言葉は禁句では？病院の状況を聞き、22年間長期に渡りジャバ・ベトナムが支援してきた事に対し、省から感謝とお礼の言葉と感謝状を安藤さんにいただいた。その後歓迎会へ。病院の方々の交流の場に同席することができ、非常に感動しました。継続は力なりと言いますが、病院の先生方、職員の方達のお礼の気持ちが伝わり、私の知らないところでこんな素晴らしい事が行われており、ジャバ・ベトナムと安藤さん等先達の方々の苦労は如何ばかりかと感じる1日でした。翌日省医療局長だった先生のお宅に伺い、安藤さんと兄弟だったと言って“ハグ”され、当時から働いておられた方の話を聞き、帰りには途中まで車で見送りにこられました。支援する側も大変だったと思いますが、相手を思う気持ちが22年間続き、それにカオバンの病院の方々が応えられた相互相愛の気持ちを感じ、これが本当の支援だと支援の意味が分かりました。

ゲアン省フンチュン村診療所で、診療所の先生方は新病棟建築費用の不足分等未定事項など様々な不安事項がある中で、地域の人達の為、自分たちが頑張っていこうとする気持ちと意志が伝わってきました。

ビンフック省ロンハー、ロンディエンの少数民族支援の話聞いた時は、少数民族でもカオバンの病院との違いの大きさに、省との関連、在り方に地域によって差があるのだと認識しました。ビンフック省ブダンの村を訪問した時は、衝撃的でした。教会の建物がある場所に集

まって来た子供達に、衣類、飴、ノート、ウチワを配った。私は飴をあげようとしたが、始め怖がって受け取ろうとはしなかった。3才から14才位だろうか？人を怖がっている様子だ。表情は暗く無表情だ。喜怒哀楽は顔に出るものだが、それさえ失くしてしまっただよに見えた。山岳少数民族の人達は国から見放され、問題が深く現状は厳しく感じられた。別の村では、水を浄化して飲料水を村人に無料で配っている人達！貧しい人達に山羊を2匹与え繁殖させて、村人の生活を向上させようとプロジェクトを頑張っているNgaさん達！ジャバ・ベトナムの支援に流されたNgaさんの泪には、胸打たれました。



Bu Dang 少数民族の子供たち

HCM市のVanさんの事務所を訪問。Vanさんを中心に家庭内暴力、麻薬、HIVの患者や様々な問題を無くそうと、健康で明るい生活に向けて日々頑張っている、当事者、家族、地域の人々！それ以外にも、草の根のように少しずつでも改善しようと真剣に考え、検証しながら動いている人達の姿に、私は勇気を頂きました。

ハノイでは、ホアンキエム湖の周りを散策し、歴史ある喫茶店で苦いコーヒーを飲み、ベトナム最古の大学から一柱寺、ホーチミン廟、大使館通りと歩き、解放感と楽しさを満喫しました。HCM市では、今津さんに戦争証跡博物館に連れていただき、枯葉剤と拷問の跡に憤りを感じ、人間のすることではないとアメリカ国に対し怒り心頭！日本に留学されている方のお宅を訪問し、各々のご家族の方に温かい歓迎を受けました。心からお礼を申し上げたいと思います。好奇心で参加した旅でしたが、Nhaさんの友人達、通訳していただいた方々、旅行を共にした個性あふれる素敵な人達にお会いできた事に心から有難うと言いたいです。本当に実のある素敵な旅でした。最後にジャバ・ベトナムの安藤さん、有難う！

22 年間ありがとうございました

小野 浩美

カオバン省立病院小児科に対して行ってきた母子保健教育プロジェクトと医療器具の支援が、今年で終了することになりました。22 年間の経過を、簡単に振り返ってみます。

このプロジェクトへの支援は、ジャパ・ベトナム創設メンバーである石本暁美さんが、1991 年に写真を撮るためにハノイから北に約 300km 離れたこの地を訪れて、当時省医療局長だった Le 先生と出会ったことから始まりました。省立病院、郡立病院を見学した石本さんは次のように報告しています。「省立病院には顕微鏡が 1 台あるだけ、郡立病院にあった 2 台のチェコ製分娩台はベトナム人にはサイズが大きすぎる。だが、医者たちは患者に対し温かく接し、ものが何もない中で熱心に研修を受け治療しようとしている。」

1986 年からドイモイ（経済刷新）政策が始まってまだ 5 年目で、ベトナム全体がまだ貧しい時代でしたが、人口約 56 万人の 95% が少数民族であるというこの省の困窮ぶりは、際立っているように思えました。乳児死亡率や子供の栄養不良率を少しでも改善したいという Le 先生の話を受けて、ミーティングを開き話し合いました。母子保健教育に支援することを決め、1992 年 2 月に 30 人の医療従事者が研修を受けられる 1,000 ドルを届けました。

1992 年 9 月に、3 人のメンバーがカオバン省を訪れ、病院スタッフと話し合いを持ちました。1979 年の中越戦争で、カオバン省に進攻してきた中国軍によって省立病院の建物は全壊したそうです。1985 年に旧ソ連の援助で新しい病棟が立てられましたが、1991 年のソ連の崩壊により支援が途絶えて、病院の中に医療機械らしきものはほとんど見当たらず、薬もごくわずかしかなかった。ゴザが敷かれた粗末なベッドや、中身が空っぽの小さな医薬品用冷蔵庫、コカ・コーラの空き缶を使っただけの薬の調合などを見て、町のクリニックでも一通りの医療機械を備え薬も揃っている日本の状況とのあまりの落差に、衝撃を受けました。一方で医者たちの素朴で明るい表情は、また新鮮な驚きでした。

ベトナムを訪問する外国人もまだ少なかった当時、日本からわざわざベトナム北端にまで

足を運んだ私たちに、彼らは感激したようでした。経済成長国の日本から来たのだから、支援を引き出せるという期待もあったかもしれませんが、1992 年に省医療局と省立病院の連名で、詳細な状況報告とともに約 6 万ドルもの医療機械類の申請書が出されてきました。ジャパ・ベトナムで集められる額ではないが、現状を見てきたので何とかしてあげたいと思い、国際医療センターの医師や関西の日越医療交流センターの医師に話に行ったり、外務省の NGO 支援基金をあたってみたり、郵貯国際ボランティア貯金寄付金へ申請を出したり、日本の倉庫に眠っている医療機械を譲り受けて現地に送れないかなど、いろいろ手を尽くしましたが、結局彼らの要望に応えることはできませんでした。

ジャパ・ベトナムとしては、石本暁美さんが亡くなったことをきっかけに設立した暁美基金から、2 コースの母子保健教育と小児科の医療器具や設備に対し、1993 年から 1997 年までの 4 年半で 260 万円を支援しました。昭美基金終了後は一般募金の中から、毎年 4,000~5,000 ドルの支援を今まで続けてきました。



母子健康教育は、省地方の医師、看護師、保健師などに研修を行い、彼らから一般の母親たちにその知識を広めてもらうものです。内容は環境衛生や子供の病気、栄養の知識、母乳教育、伝染病の知識などで、少数民族の人々に衛生意識を高めてもらう狙いがありました。人々の衛生感覚が 22 年でこのように変わり子供の病気がこのように減ったと、私たちの目に数字として見えているわけではありませんが、こうした地道な取り組みを継続していく中で、必ず人々の糧として蓄積されていると、私は確信しています。

医療器具については、とりわけ 2005 年に支援した黄疸治療灯は、それまではハノイまで運ばなければならなかった患者をここで治療できるようになり、とても助かっていると小児科医師から何度も話されました。

この 22 年の間に、国の経済成長によって省の医療予算も増え、他からの支援も入るようになって、新病棟も次々と建設され医療機械も充実してきました。これまでジャパ・ベトナムの支援で行ってきたことは、今後は病院が自力で進めていけると考え、ここで支援を終了することを決断しました。

東京で生活している中では想像もできなかったような、この山深い美しい地での少数民族の暮らしぶりに触れる中で、人間の生き方につ

いて考えさせられ、多くのことを学ばせてもらいました。毎年、変わらぬ温かさで率直さで迎えてくれたカオバン省のみなさんに、心より感謝します。



カオバン省行政府知事名での感謝状

貧しさを乗り越えてどのように発展していくべきか

平井 裕

ジャパ・ベトナムツアーに参加して、今年二度目のベトナム訪問が実現しました。ツアーの後半のホーチミン市と南のメコンデルタ地帯の支援先を訪ねる旅でした。

私は、戦争中の 1973 年にアジア交流ワークショップに参加したことをきっかけに、次の 1974 年にボランティアで電気工事とオートバイ整備の技術講習プログラムに参加したメンバーの一人です。その当時から日本からの支援は ODA を通じて行われていましたし、日本との友好関係が既に作られていました。遡っては、東遊運動という日本に学んで新しい体制を築こうという考え方に基づいて日本に留学した男が居て、そのことが日本とベトナムの繋がりを作り、独立運動の礎を築いたと聞いています。そのエネルギーが凶らずも、75 年のサイゴン陥落という結末によって共産圏に変わり、日本との交流が途絶えてしまったわけです。その当時、私達に同行してベトナムの支援活動を共に行ったベトナム留学生在が居たのですが、終戦は彼も含めて日本にいた多くの留学生の運命を左右しました。もちろん帰国は出来ず、日本にいるか海外に行くかと言う選択をせざるを得なかったのです。現在多くは日本人となって、社会をリードし支えて来ました。

私自身、それ以来在日ベトナム人との交流が続いて親しくしていましたが、特にベトナム本国と関係することはありませんでした。1996 年にある機会から、再度ベトナムを訪ねて、戦

中に 1 か月以上滞在した難民部落や市内の施設は変わり果てて見つけることが出来ませんでした。ドイモイ開放政策後の状況は、観光に関してはオープンになって、その当ても日本からの訪ねる人は多かったようですが、現在市内の繁華街の変わり様は目を見張るものがあります。ただ大学教育においては、機器・設備は今もまだ十分ではないものの、構内には若い学生があふれています。またコンピュータの普及や、若者のスマホ所有が当たり前になりつつある状況は、将来の社会、文化の新しい変化を想像させます。ストリートチルドレンが多かった時代と比べて、そのまたほぼ 20 年後の今でも、やはり道端で商売する習慣は変わらず、あの少年たちが雑踏の中で今も活躍している靴磨き、物売りになってしまったのかもと思いました。一方で、バイクの部品を沢山飾った修理の店が沢山並んでいるのをみると、もしかしてどこかの店ではあの時の青年が商売をやっているのかと、それを突き止めたい衝動に駆られました。将来、修理技術が発展して、ホンダ、ヤマハにつぐベトナムメイドのバイクが出来てもおかしくは無いでしょう。

今回のツアーでは、現在ジャパ・ベトナムで支援している市内にある教会敷地内の HIV / AIDS 治療の診療所、HIV の子供と家族をサポートする Smile Group、HIV や麻薬中毒から復帰をサポートする事務所などを訪ねて、まだ多くの恵まれない人たちが苦しんで

いるのだという事実を肌で感じました。一方でツアーの合間に訪問した大学のレベルは相当上がっていて、新興の私立大学も出来てきていて、30歳までの人口が60%のこの国では、教育が真に大切な課題となっていると思われます。

ツアー後半は、中心地カマウがあるメコンデルタ地帯の支援場所を訪問しました。メコンデルタは、ベトナムの総面積33万m²の1割強で、農業国であるベトナムの重要な穀倉地帯で、メコン川の支流とそれを結ぶ網の目のような水路を中心に広がっています。大きな川に関しては日本も含む海外からの資金援助で橋が架かり、ホーチミン市からのアクセスが以前のように船を使うことなく出来、便利になっています。ただ、小さなクリークに関しては、橋が小さいため、車は通れず、バイクと船が交通手段であることに変わりはありません。私達も、車から案内の方のバイクの後部に乗りかえ、しがみつきながら最後の目的地に到着しました。目的地に向かう途中には、水田や、イグサ畑、椰子やバナナなどの林が広がり、道路脇の屋台のトゥモロコシをかじり、ヨシズ張りでハンモックのある典型的なカフェで休憩を取り、暑い中長距離ドライブを楽しみました。

Soc Trang 省 Dai Hai では、支援している教会ある村のインフラ整備の状況を見学し、また Nam 神父様からも説明を受けました。今回の支援で村の中心部を流れる川に沿った生活道路1kmを整備するために、家を後退させて道路を拡幅して車が通れるようにしました。救車も通れるようになったし、そしてなによりも通学・通勤に通りやすくなったようで、自転車、バイクが頻繁に行き交っていました。周辺部からの借入れも含めて計1万ドルかかったとのことでしたが、川の水位が上がると道路が水没することで今後はかさ上げする必要があるとのことでした。また、最終目的地であるバックハイまではあと200mの所で工事が未完成でもありますが、来年の申請は未定と聞きました。



Soc Trang 省 Dai Hai 今回の支援で完成した道路

メコンデルタの海に近い地域は、大手の商社を介して日本に輸入されているエビの養殖で有名ですが、20年以上の経験からきちんと管理の技術を持っていることを、頂いたおもてなしの料理の味、新鮮さで確認出来ました。

今回訪問したのはエビの養殖の漁村で、貧しい家庭の家屋の新築を、カマウの教会の Dat 神父が積極的に援助している村です。村の周辺には沢山の養殖池が並び、組織的な漁業が行われ生産は安定しているように見受けられました。個人や会社の形で捕れたエビ、カニを集積所から商社へ受け渡して商売をしており、この地域の人の収入は、約1000ドル/年とのことでした。村には80mの深さからでる質の良い上水井戸が有って何軒かで共有し、モーターで汲み上げ配管で供給、または手で汲むことで生活上大きな問題は無いようです。下水は海に流しているとのことで、自分の家の中は清潔を保つが外にものを簡単に捨てるような、環境にはあまり神経をつかわない習慣があることから、今後のこの辺りの衛生教育が必要だと思われました。干物を作っているにもハエを見かけず、蚊も居ないのは、養殖池の水が塩水と真水の汽水域で、蚊が生息できないためだという。人々は豊かな自然に恵まれて、その特徴をよく生かして生活しているように見受けられました。

今回支援で新築した2軒の家を見学しましたが、屋根はトタンのバラックづくり、建築費用は13万円/軒で15日かかったとのことでした。この住宅に住むのは、妻が重い心臓病を患って手術の費用も出せない貧しい家族だったり、脳溢血で仕事が出来なくなった夫が居て日々の暮しをわずかな妻の収入で支える家族であったりしました。いずれも家の入口の壁には、ジャパ・ベトナムの支援で作られたとのプレートが貼ってあり、感謝の言葉を沢山聞きました。今後も、2軒/年の建設に関する継続の援助要請がありました。Dat 神父は、この村だけでなく政府と協力して、子供の教育や無料の医療、それからフランス人の団体からの奨学金を元に大学生や専門学校生の生活支援など、社会的な活動を積極的に行っています。

最終日に Hau Giang 省 Phung Hiep の聖ヨゼフの小学校を訪ねました。子供たちの歓迎の中、ジャパ・ベトナムが持参した鉛筆とノートを一人一人に配り感謝されました。大切そうに受け取る子供たちの笑顔が大変印象的で、明るい子供たちの様子は日本の保育・教育の現場と

全く変わりはありません。この小学校は、美しい田園の中に有って、現在生徒は 170 人、5 学年 6 クラス（各学年は 1 クラスだが 2 年だけ 2 クラス）の編成で、9 人の先生（うち専門職が 3 人）で教育を行っていて、生徒が去年から 30 人増えたため教員も 3 人増やしたと聞きました。去年から支援を始め、今回のジャバ・ベトナムの支援金は、3 つの教室の天井、蛍光灯、扇風機の設置と、残金は先生の給料に充てられました。生徒の 60% は学費（学費は 40 万ドン/年）を払っていて、勉強についていけない生徒は居ないという事で、生徒一人一人を大切に教育していることがうかがえます。来年は、生徒用トイレの拡充、飲料水の浄化、黒板の整備などが必要とされていて、現在計画中です。生徒の 7 割がカトリックだというのが、その区別なしで入学できることや、その教育内容のため地域で評判が良いようです。小学校から中学へは無試験で入学でき、23 年の歴史があるので、既に社会人となって働いている人も多いことから、同窓会的な支援も可能と思われる。この年齢層の教育は、幼児期と同様その子の将来を決める重要な時期ですので是非何らか組織的な形で活動援助が出来たらと思いました。



Hau Giang 省 Phung Hiep 聖ヨゼフ小学校

農村は土地がある分、それを活用して色々な作物も自給できる点が有利で、これらの資源をもっと活用することで生活を豊かに出来ることが期待できると思います。一方都市部ではこれから増えていく多くの若い人たちの仕事・労働を確保するのはなかなか難しい状況と思われる。今ベトナムの安い労働力を求めて、海外からどんどん資本が入ってきています。日本も 1000 社以上の会社（技術系が半分位）がハノイと、ホーチミンを中心に事務所・工場を構えていると聞いています。確かに安い労働力で物を作って海外に高く売れる時代は良いと思いますが、一方現地で売るには高すぎる場合もあり、また賃金が上ればまた会社は海外に出て行ってしまうという現実、中国の現状を見ればわかります。自前の技術を持つことができればコストも下がる、また新しい展開も計れます。ジャバ・ベトナムは 20 年支援の活動を途絶えずにやってきますが、本当にそれは素晴らしいことだと思います。今までの支援の方法に加えて、それぞれの地域で、仕事を確保して自立していくことが出来るような新たな方法を模索しながら支援していくことを、これからやって行けたらと思います。将来に向けて社会インフラがどんどん整備されていって、また社会システムも変わっていく中、日本とベトナムの関係はますます強くなって行っていると思います。その中でベトナムの良さを失わずに、海外との連携・協力を密にし、新しい取り組みにより自立した特徴のある国になって行って欲しいと思います。ベトナムの若い力は日本にも影響をあたえ、お互いの国のためになることでしょう。

もう少し落ち着いて

篠崎 翠

8 月 27 日、先に出発しているメンバーとホーチミン市で合流するために 17 時 25 分成田発の NH931 便でベトナムへ行きました。20 年来、何度となくベトナムを訪問・旅行してきていますが、今回初めて、旅行に先立ってネットでチケットを購入、座席指定をし、オンラインチェックインをしてボーディングカード（パス）まで手元入手して空港に向かうという、私としてはいろいろ初めての経験をしました。チケットを購入し、飛行機が飛び立つ時間を確認して空港宅配便の手配をしました。空港での

荷物引取りはいつものように出発 2 時間前の時間を指定し、宅配会社に荷物を預けて、一仕事終わったような気分になってホッとしていました。

8 月 27 日、先に出発しているメンバーとホーチミン市で合流するために 17 時 25 分成田発の NH931 便でベトナムへ行きました。20 年来、何度となくベトナムを訪問・旅行してきていますが、今回初めて、旅行に先立ってネットでチケットを購入、座席指定をし、オンラインチェックインをしてボーディングカード（パ

ス)まで手元に入手して空港に向かうという、私としてはいろいろ初めての経験をしました。

チケットを購入し、飛行機が飛び立つ時間を確認して空港宅配便の手配をしました。空港での荷物引取りはいつものように出発 2 時間前の時間を指定し、宅配会社に荷物を預けて、一仕事終わったような気分になってホッとしていました。

そこへ、搭乗時間 24 時間前にチェックインした知らせが届いたので送られてきたボーディングパスをプリントアウトしました。注意書きを読んだら、搭乗時間 1 時間前までに空港へ行けばよいことがわかったので、今度は自分の自宅を出る時間を調べるため、ネットの「路線検索」を使って成田空港に着かなければならない時間から逆算して自宅を出る時間を決めました。

遠方へ行くときのいつもの癖で、私は少し早めに家を出ました。まず最寄りの駅で、調べておいたのよりも少し早い電車に乗り、上野で京成電車に乗り換える時も、調べておいたのより 1 本早い特急がホームに停まっていたのでそれに乗り込みました。

電車が走りだし、一息ついたところでおもむろにチケットを取り出して下車駅と時間を確認して驚きました。

なんと、私が調べしておいた電車は、搭乗時刻に成田空港駅に到着することになっていたのです！ でも、まだ実感がわかず、成田空港駅で下車してのんびりと出発口に向かってエスカレーターを登っていきました。荷物を引き取りに宅配サービスの窓口に行き、やっと目が覚めた思いでした。係りの人が私の姿を見る

なり、「お客様の荷物はすでに搭乗口に運ばれています」というのです。やっと、事の重大さに目が覚めました。チェックインカウンターはすでに、人気がなく係りの人の姿も見えません。少し焦り気味になった私は誰でも構わないと思って事情を話しました。そのあとは、息が切れるほどに急がされて飛行機のタラップの下へ案内され、そこで私の荷物の確認がされ、やっと機内へ入ることができました。幸い、最後の一人ではありませんでしたが、遅刻の一人でした。

9月1日、他のツアー参加者と別れて別行動のためにホテルを後にしました。新しいところについて何気なくバッグを開けて、あっ！パスポートがない！ 今しがたまでいたホテルに置いてきてしまったようです。幸い一緒にいたベトナム人の友人に取りに行ってもらいましたが、気づかずにいて帰国しようと空港へ行ったら大変なことになっていたと思うと、冷や汗でした。無事に飛行機に間にあってベトナムに着いたし、パスポートも手元に帰って帰国することができましたが、もう少し落ち着いて行動したほうがよかったですよね。私の今年のツアー参加の反省です。



ミニバスの車窓から — 成長の果実、若人の夢

中野 孝文

今年も昨年に引き続き JAPA Vietnam の支援先訪問ツアーに参加しました。今年のツアーでは私はメコンデルタ地帯の支援先訪問には参加できなかった。一方で昨年訪問できなかった Nghe An 省 Hung Trung の診療所を訪問することが出来ました。また新たに Binh Phuoc 省の Long Ha および Bu Dang で少数民族支援をしている先を訪れた。北の中国国境に接する Cao Bang 省から南は HCM 市まで巡りました。Hanoi 市から HCM 市への移動は飛行機で

したが、Cao Bang 省、Nghe An 省、Binh Phuoc 省の移動は全てミニバスで移動しました。バス旅行で田舎を廻ると見えてくるものがあります。それは広く皆さんに知られているベトナムの経済成長であり、その生活の向上です。一方、バスの車窓からからは窺えないのは人々の心の中に潜むものです。それらは人々から聞く話の端々に垣間見えるものです。

バスで移動して見えてくる成長の果実は、まず高速道路の発達です。昨年 Cao Bang 訪問

の時に辿ったルートは一年で変わり、ハノイから Thay Nguyen まで高速道路が伸びています。Nghe An 省 Hung Trung に行くときも Nam Dinh まで高速道路が走っていました。南部ホーチミン市も高速道路が東西に拡がり便利になっています。10 年前にホーチミン市から 2 時間半掛かっていた工業地帯へ、今や 1 時間 15 分で到達しました。時が金になる世界に変わりました。Nghe An 省 Hung Trung への道は高速道路終点後の一般国道が改修中で、思わぬ時間を取られました。来年の訪問時にはもっと便利になっているとの事です。Hung Tung からの帰りは、若干遠回りでしたが山側を南北に走る国道を利用しハノイに戻りました。幸いに渋滞は無く往路よりは時間も掛からずに済みました。それでも 6 時間ほどの旅となりました。この山間の復路に沿って南北をつなぐ 500kv 高圧送電線が走っているのが見えました。この南北を貫く電力送電線がベトナムの工業化を支えています。この 500kv 送電線は南の Bu Dang の街を訪問した際にも、復路の Song Be へ向かう道路に沿って見え隠れしました。北部 Cao Bang 省へ向かう道路の周辺は途中から少数民族が多数を占める地方に入り閑散としますが、Hanoi 市から南に向かうルートは街々が続き、Bu Dang から HCM 市の帰りも活気のある街々に出会います。場所ごとに大きく変わる世界をバス旅行は見せてくれました。



Bu Dang の街中

バスの車窓からは社会の内情、人々の心は見えてきません。人々との交流から垣間見えてきます。Cao Bang 病院では「ベトナム医療事情の全体の向上は確かにそうだが、Cao Bang 省の遅れは 5 歳未満児の死亡率が平均の 2.4 倍と大きな差異がある。」と言う直接的な話もある。しかし大半は Long Ha 修道院での「少数民族の子ども達は 30Km もの道のりを逃げて戻ってしまう。卒業後も街には出ずに出身の

村に戻ってしまう。」などの言葉の端に隠れています。言葉の違い、文化の違い、歴史的経緯、生活レベルなど様々な要因で差別感を生じ格差を生じさせていると推測しています。ベトナムに以前からある少数民族問題に限らず、農村の貧困問題、HIV/AIDS 感染、麻薬犯罪など多様な背景で、差別・格差が生じているようです。今回は初めて Binh Phuoc 省 Bu Dang 近郊の少数民族の村の中に私は入りましたが、Long Dien の少数民族子ども達の寮訪問と同様に、その格差・差別の実態的なものを知ることが出来ませんでした。ゴムのプランテーション、カシューナッツ栽培、珈琲栽培の林の中を、未舗装の道を走って行った。急坂が多く雨が降れば泥濘おそらくミニバスでの走行は出来なくなるかと思わせる道だった。電気が来ていないと言われたこの村の人々の生活の貧しさは見えるが、残念ながら人々の心の中は見えてこない。



車窓からの珈琲の花

今回のツアーで非常に印象に残ったものの一つは、Cao Bang 省立病院の皆さんから受けた JAPA Vietnam への心からの感謝の気持ちと、引き続き必要な母子保健教育の継続の表明でした。Nghe An 省 Hung Trung 村の診療所では、厳しい経済情勢の中で働く医師、看護師の自分の仕事への誇りと、若い看護師が「Chao」の中に載る自分の写真を見つけた時の喜びの笑顔です。Binh Phuoc 省 Bu Dang では、少数民族の貧しい生活に心を痛めて支援活動を始めた、若いベトナム人の真摯な仕事と我々の支援に対して流した喜びの涙です。ホーチミン市では、行政機関からの圧力、民間人のいやがらせも乗り越えながら、長年 HIV/AIDS 問題、麻薬犯罪問題など社会開発運動を進めている、幾つもの NGO の若い世代の人々の知恵としたたかさです。

今回のツアーで様々な場で若い世代の真摯な彼らに会い、その真剣な動きをみて私は大変嬉しく思い、将来の彼らの夢の実現に確信を持ちました。

* ご協力ありがとうございます *

2014年3月21日～2014年10月16日までの会費・寄付納入者のお名前です(敬称略)

青沼 酉子	品川区	THAI THI MINH CHAU	大田区	中野 孝文	川崎市
飯田 幸子	足立区	滝戸 玲子	船橋市	西山 正子	足立区
イエズス会社会司牧センター		武市 英雄	相模原市	根岸 寿	神戸市
イエズス会駒場共同体		武内 清子	横浜市	野本 佳子	新宿区
逸見 裕一	さいたま市	武永 蘭	杉並区	ハ・ティ・オアン	藤沢市
井手 公平	大牟田市	田山 JESSIE	足立区	樋口 禮治	豊川市
出村 俊輔	三郷市	辻村 寛行	清瀬市	姫路ベトナム人カトリック共	
大泉 廣	江戸川区	戸村 信子	長崎市	同体	
小野浩美	三鷹市	鳥井 恵子	兵庫県	平井 裕	新宿区
柏村 忠志	土浦市	NGUYEN THANH VU	兵庫県	福井 武	市川市
グエン ティ トイ	姫路市	NGUYEN THI DAN	兵庫県	藤井 訓子	広島県
栗楠 初人	広島市	THANH	兵庫県	堀井 美枝子	札幌市
栗梅 華江	広島市	NGUYEN THI MAU	兵庫県	圓山 節子	葛飾区
小池 美恵子	国分寺市	NGUYEN THI NGAI	兵庫県	宮坂 淑子	さいたま市
高野道郎メモリアル “ジャパ		NGUYEN THI TAM	兵庫県	村田 光司	那覇市
ナム” プロジェクト		NGUYEN THI TAM	兵庫県	本山 京子	広島市
櫻井 實	つくば市	NGUYEN VAN MY	兵庫県	柳下 修	横浜市
櫻井 優子	つくば市	DO VAN MUOI	兵庫県	箭島 多美子	広島市
佐竹 道子	長崎県	HA THI KINH	兵庫県	山形 辰文	新宿区
佐藤 政信	草加市	HO SA MY	兵庫県	山本 喜代子	練馬区
佐藤 みどり	練馬区	HO THANH HUY	兵庫県	匿名	足立区
渋谷 節子	足立区	LE THI PHUONG	兵庫県	四谷ベトナム人カトリック共	
上智大学カトリックセンター		TRAN ANH NGOC	兵庫県	同体	
聖母訪問会モンタナ第二修道	千代田区	VU THI PHUONG	兵庫県	匿名	江別市
院	鎌倉市	中嶋 俊之	江戸川区	匿名	板橋区
関本 浩平	横浜市				



ツアー報告
あり

秋のチャリティコンサート

開催します♪

入場
無料

11月29日(土) 14時~16時

岐阜ホール 305号室(四ツ谷駅 徒歩3分)



ミニ交流会あり♪ ベトナム手作りケーキ・飲み物あり♪ ベトナム一弦琴ダンバウの体験コーナーあり♪
ベトナム民族楽器の音色やうたに包まれながら、新しいベトナムに出逢ってみませんか？

◆◆◆会計報告◆◆◆

(2014年3月21日～2014年10月16日)

募金会計		活動費会計	
収入		収入	
一般会費	715,899	活動費寄付	15,000
賛助会員	0	バザー売上	0
助成金	300,000	ツアー残金	0
普通利息	0	雑収入	0
雑収入	0	小計	15,000
小計		支出	
小計	1,015,899	活動費	19,726
支出		印刷費	0
支援金	1,625,000	文具資料費	0
送金手数料	0	通信費	19,107
小計	1,625,000	小計	38,833
前期繰越金	801,625	前期繰越金	48,637
当期収支	▲609,101	当期収支	▲23,833
次期繰越金	192,524	次期繰越金	24,804

<会計の説明>

【助成金内訳】

◆高野道郎メモリアルジャパナムプロジェクト

- 300,000 円
 - ・少数民族支援(ビンフック省)へ 100,000 円
 - ・聖ヨセフ小学校(ハウザン省)へ 100,000 円
 - ・エイズ子供ケア(H.C.M.市)へ 100,000 円
- を支援しました。

【支援金内訳】

- ◆エイズプログラム(H.C.M.市) 300,000 円
- ◆エイズ診療所(H.C.M.市) 300,000 円
- ◆エイズ子供ケア(H.C.M.市) 125,000 円
- ◆少数民族家建築(ビンフック省) 300,000 円
- ◆少数民族衣類(ビンフック省) 30,000 円
- ◆聖ヨセフ小学校(ハウザン省) 300,000 円
- ◆家建築(カマウ省) 270,000 円

合計 1,625,000 円

JAPA VIETNAM をご支援ください

JAPA VIETNAM にご支援いただくには、以下の三つの方法があります。

- 一般会費 年間1口(2000円)以上
- 賛助会費 金額・時期ともご自由に
- 活動費寄付 活動費の支援(金額自由)

どれになさるかはご自由にお選びください。ご都合に応じてご送金いただければ幸いです。会費をお振込みいただいた方には、振込の半券で領収書とさせていただきます。領収書が必要な方は、振込用紙の通信欄の「領収書必要」の口にチェックを入れてください。事務費削減にご協力いただくと幸いです。

【ご送金は郵便振替で】
00100-8-118761
JAPA VIETNAM

◆
【銀行をご利用の場合は】
三菱東京UFJ銀行 四谷三丁目支店
東京女子医大出張所
普通預金 3544236
JAPA VIETNAM 代表 安藤勇

紙名『チャオ・ベトナム』について

「チャオ」(chào)とはベトナム語で「こんにちは」という意味です。『チャオ・ベトナム』というタイトルには、ベトナムの人たちと友情のネットワークを築いていきたいという、私たちの願いがこめられています。

ベトナムの未来にあなたのを

ジャパ・ベトナム

(日本ベトナム民間支援グループ)

JAPA VIETNAM

(Japanese group of Private Assistance to VIETNAM)

〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-5-1
岐部ホール4階
イエズス会社会司牧センター内

◆
電話 03-5215-1844
FAX 03-5215-1845

◆
e-mail:chao@japa-vietnam.org
http://www.japa-vietnam.org/